

第3章 実施に向けて

1. 施設整備イメージ案の作成と概算事業費の算出

1) 施設整備イメージ案の作成

第2章で検討した歩行者系サイン及び車両系サインを実際に設置した場合の施設整備イメージ例を合成写真によりシミュレーションを行った。

<歩行者系案内サイン（犬山駅）>



<歩行者系案内サイン（城前広場）>



<車両系案内サイン（春日井各務原線）>



<観光駐車場満空案内サイン（大門交差点）>



2) 概算事業費の算出

第2章で検討した歩行者系サイン及び車両系サインの概算事業費（設置費を含む）を下記に整理する。

【歩行者系サイン】

プラン	施設名	概算費用（円）
A案 (高札)	総合案内サイン	4,200,000
	案内サイン	3,300,000
	道標・単柱	550,000
	道標・矢羽根	750,000
B案 (木戸門)	総合案内サイン	4,900,000
	案内サイン	3,700,000
	道標・単柱	750,000
	道標・矢羽根	950,000
C案 (格子)	総合案内サイン	6,200,000
	案内サイン	5,000,000
	道標・単柱	600,000
	道標・矢羽根	750,000
D案 (さくら)	総合案内サイン	3,700,000
	案内サイン	3,000,000
	道標・単柱	450,000
	道標・矢羽根	700,000

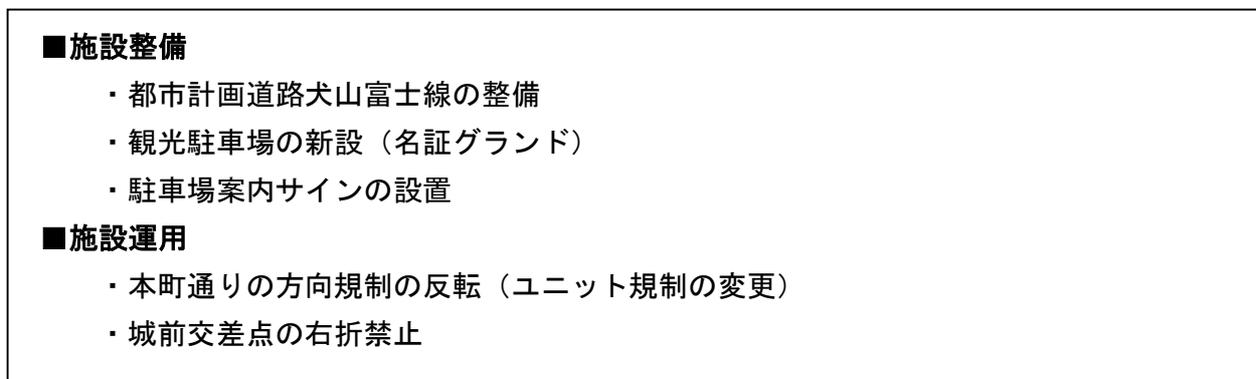
【車両系サイン】

プラン	施設名	概算費用（円）
A案 (高札)	犬山城案内板	2,800,000
	観光駐車場案内板	2,800,000
	観光駐車場満空案内板 (システム概算費含む)	24,000,000
B案 (犬山城)	犬山城案内板	3,000,000
	観光駐車場案内板	3,000,000
	観光駐車場満空案内板 (システム概算費含む)	24,000,000
C案 (さくら)	犬山城案内板	2,600,000
	観光駐車場案内板	2,600,000
	観光駐車場満空案内板 (システム概算費含む)	24,000,000

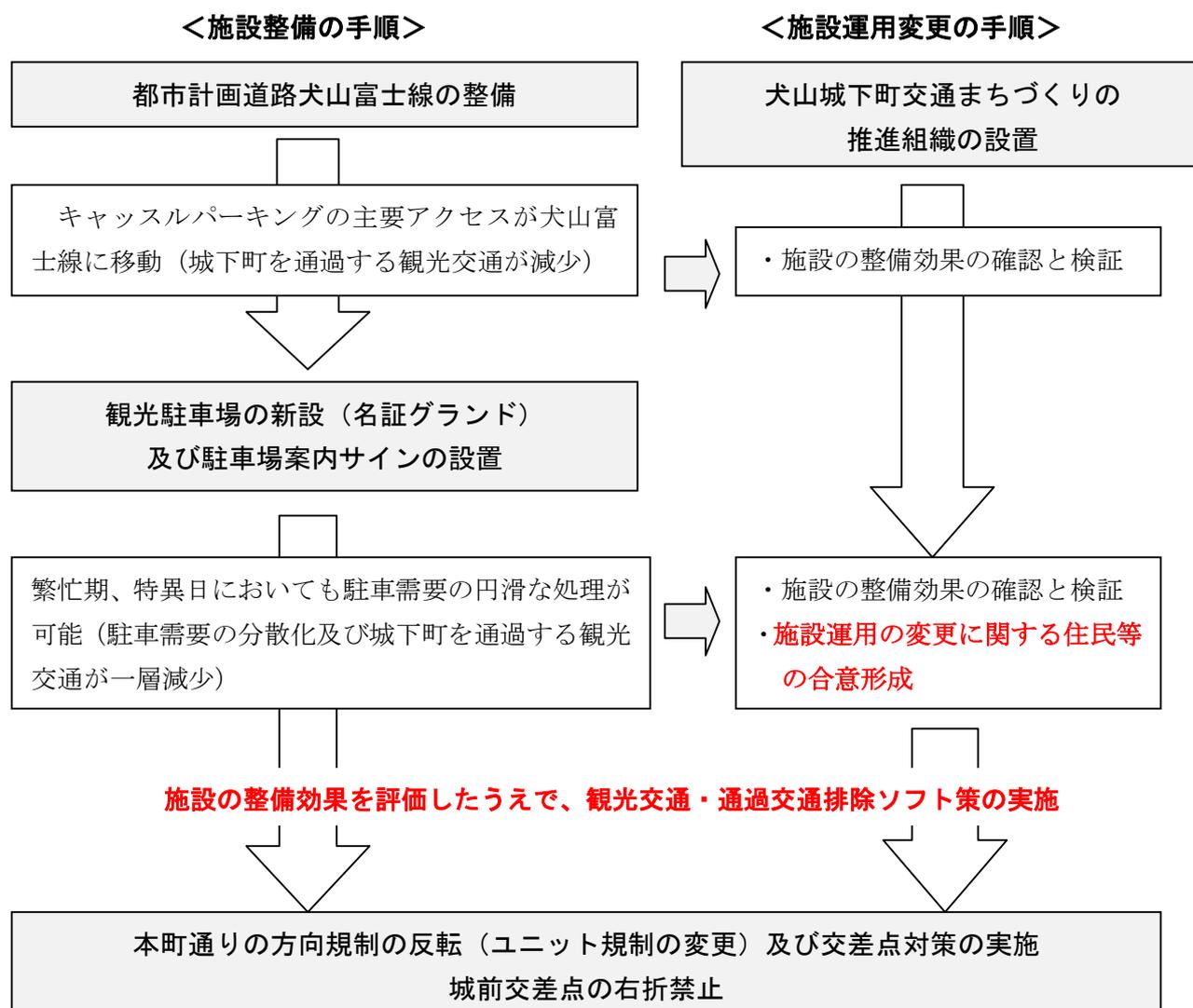
2. 実施スケジュール案の作成と推進体制の検討

1) 実施スケジュール案の作成

本計画で整理、提案された交通まちづくり計画は以下の通りである。



これら計画は相互に関連するとともに、計画実施の前提となる計画もある。以下では、その計画の進め方を整理する。



2) 推進体制の検討

城下町地区の交通まちづくりでは、前述したように個別計画を順次実施し、その効果を評価して次の計画実施に進むといった「Plan—Do—Check—Action」の取組が必要です。そして、こうした中長期的なまちづくりを進めるためには、関係者の協議調整の場であるとともに計画の実施を推進する担い手となる組織の設置が望ましいと考えます。

以下にその組織のイメージを示します。

■「(仮称) 犬山城下町交通まちづくり推進協議会」の設置

城下町の交通まちづくりを進めるにあたっては、このまちづくりに係る関係者により構成される推進組織の設置が望ましいと考えます。この組織では、主に以下の活動を行います。

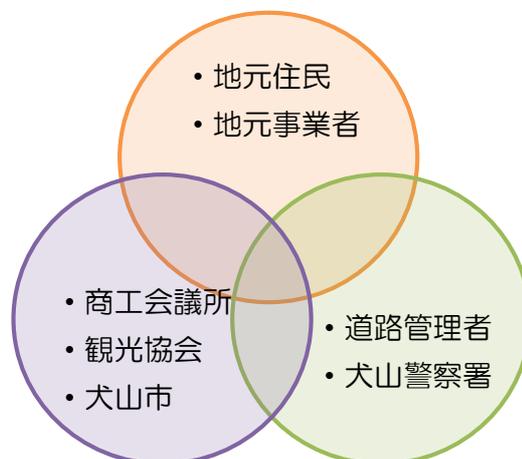
- 施設整備の実施に係る地元協議調整
- 施設整備の整備効果の確認と評価
- 交通規制の変更や導入に関する社会実験の企画、実験時の役割分担、実験結果の評価

また、その組織構成は以下の関係者で構成されることが考えられます。

- ・城下町地元住民代表（自治会、既存まちづくり協議会等）
- ・城下町事業者代表
- ・道路管理者（愛知県、犬山市）
- ・犬山警察署
- ・商工会議所、観光協会
- ・犬山市役所（事務局）
- ・学識経験者 等

この組織では協議調整を通じて意思の疎通を図り、関係者が一体となって当該まちづくりを実現しようとする意欲を醸成することが望ましいと考えます。

<犬山城下町交通まちづくりの三位一体の取り組み>



3. 実証実験の企画

城前交差点の交通混雑は、キャッスルパークキングに向かう観光交通に加え、本町通り及び郷瀬川方向からライン大橋に抜ける通過交通が集中し、また右折することにより発生していると考えられることから、当該交差点において以下の方向規制を実施することが具体的な対策として考えられるとして第1章で提案した。

○城前線の西行きのライン大橋方向への右折を禁止する

○城前線の東行きの本町通り方向への右折を禁止する

犬山富士線の整備や観光駐車場の新設後も城前交差点での交通混雑が軽減されない場合は、この交通規制を実施することにより、本町通り及び郷瀬川方向からライン大橋に抜ける通過交通を排除し、交通混雑を防止することが可能と考えられる。

しかし、城下町住民のライン大橋利用が現在の様に利用できなくなり迂回が必要となるため、住民の理解と協力が必要である。その理解と協力を得るため、当該交通規制を実験的にを行いその効果を検証することが必要である。

<犬山城下町における交通まちづくりに関する社会実験の提案>

